

# こどもと健康

NO・149

2014・9・3

## デング熱について

終戦後まもなくから国内における感染報告のなかった「デング熱」が8月27日に報告されて以来、全国で30例以上の報告がありました。東京都立代々木公園周辺に行った人で局地的に発生しています。今までなかった聞きなれない病気ですので、マスコミが大きくとりあげて、心配される方もおられます。

「デング熱」はアジア、中南米、アフリカなど熱帯・亜熱帯地域には普通に見られる病気で毎年5000万人～1億人の患者が発生していると考えられています。日本でも終戦後東南アジア等から引き揚げてきた人が持ち込み流行した時期もありましたが、この60年以上は国内における感染例はありませんでした。ただ、海外に於いて感染し帰国してから発症する輸入例は毎年報告されており、2012年は221例、2013年は249例ありましたが、重症者はありませんでした。

「デング熱」はウイルスを持った蚊、日本ではヒトスジシマカに吸血された際に感染します。ヒトからヒトに感染することはありません。この蚊は日中、公園や森林等に広く生息するヤブカ類です。

ウイルスを持った蚊に刺されると、3～7日して突然の発熱に激しい頭痛、関節痛や筋肉痛を伴い、インフルエンザに似た症状で発症しますがその後発疹が出るケースが多いようです。ごく一部に重症化してショック症状や出血傾向を伴う事もあり、「デング出血熱」と言われるケースがあります。抗ウイルス薬など特異的な治療法はなく、解熱鎮痛剤などの対症療法が中心となります。診断は衛生研究所でRT-PCRによるウイルス遺伝子の検出によります。

予防は日中蚊に刺されないこと。長袖、長ズボンに虫よけスプレーで蚊に刺されないようにしましょう。蚊の発生源になる水たまりをなくしましょう。蚊の行動半径はせいぜい100メートルですので、大きく感染が拡大することはないと思われませんが、代々木公園と同じことがどこに起こっても不思議ではないと思います。毎年200例以上が日本に持ち込まれていましたので、今までにも発生していたかも知れません。致死率が50%を超える西アフリカで発生している「エボラ出血熱」のこともあって心配される方もおられますが、終戦後の衛生状態が極端に悪かった時でも数年で自然に消滅しましたし、これから涼しくなって蚊も少なくなりますので、局地的な流行で終わるのではないのでしょうか？ それを期待しています。

**母子手帳を持って受診しましょう！**

**接種漏れのワクチンや必要なワクチンをお話しします。**

# 10月からみずぼうそうワクチン定期接種化

保育所、幼稚園で毎年乳幼児に流行する「みずぼうそう」ワクチンがこの10月からやっと定期接種化されて無料になります。対象は1歳と2歳児で1歳のお誕生日がすんだらMR（はしか・風疹混合）ワクチンと同じ時期に1回目の接種をします。2回目の接種はMRワクチンが就学前の年長児ですが、このワクチンは6ヶ月～1年後に接種します。ワクチンを接種すると1ヶ月位で免疫は95%程度出来ますが、時間の経過と共に減衰して保育所などで流行すると軽く罹るケースが結構あります。これを避ける為に、2回目のワクチンは6ヶ月～1年後に接種します。既に2回接種した方は対象外で、1回接種した方は6ヶ月以上あけて2回目を接種します。

副反応として生ワクチンですので、ごく軽いみずぼうそう症状の発疹が接種2週間後位に100人に一人程度あります。発熱はゼロではありませんが、殆んど出ないようです。発疹が出ても他人に「みずぼうそう」をうつすことはありません。

今年度に限り、平成27年3月31日迄は3歳児と4歳児も1回だけ接種できます。未接種の方、1回だけ既に接種した方は1回目から半年以上あけて接種して下さい。

みずぼうそうワクチンは生ワクチンですので他のワクチンは4週間開けてから接種して下さい。みずぼうそうワクチンと他のワクチンの同時接種は可能ですので、ご相談下さい。

## 熱中症に注意しましょう！

長かった夏休みが終わりました。お母さんはホッと一息でしょうか？今年例年より涼しく、昨年8月には18日もあった猛暑日が今年はゼロでした。それでも一気に秋とはいかず、まだまだ蒸し暑い日が続くでしょう。今年も熱中症がマスコミを賑わせました。総務省消防庁の報告によれば、7月21日～27日の1週間に全国で熱中症による救急搬送は8580件に及び、次の週も5277件ありましたが、その後雨が多かったせいか次第に減少しています。高齢者では死亡されたケースもあります。以前は「日射病」や「熱射病」に分けられていましたが、最近では「熱中症」と総称されます。

直射日光に長時間さらされたり、蒸し暑い場所に長時間いると罹ってしまいます。汗をかくことにより、体の中の水分やミネラル、主に塩分が失われることにより、体温が上昇し過ぎてしまうことにより発症します。初めのうちは沢山汗をかいて、めまいや立ちくらみがあり、筋肉痛やこむら返りを伴う事もあります（1度、軽症）、進行すると逆に汗が出にくくなって頭痛、吐き気、嘔吐が現れ全身倦怠感を訴えます（2度、中等症）。更に進行すると、意識がもうろうとして痙攣を起こしたり、体温が40℃を超えることもあります（3度、重症）。特に、体温調節が下手な子どもやノドの渇きに対する感覚が鈍る高齢者に体の水分が不足し易くなります。暑い部屋や車の中でも起こりますので、暑い季節には子どもや高齢者はこまめに水分を補給しましょう。予防には所謂スポーツ飲料でも良いのですが、症状が出始めたらもう少し塩分の濃いOS-1等の経口補水液の方が良いでしょう。炎天下の外出にはスポーツ飲料を持って帽子を被り、日陰を選んで歩きましょう。こまめに水分を補給し、1度の症状が出たら、風通しの良い涼しい場所に寝かせて衣服を脱がせ、水分を補給し、冷たい水でぬらしたタオルで体を冷やしましょう。2度の症状が出れば、病院を受診、3度の場合は救急車で病院を受診して下さい。